

宿泊行事と関連付けた総合学習「自然環境を守る／活かす」の取組

Integrated Learning "Protecting/Utilizing the Natural Environment" Activities Related to School Trip

藤原 大樹・木村 真冬・長谷川 愛・森 祐樹

Daiki FUJIWARA、 Mafuyu KIMURA、 Mana HASEGAWA and Yuki MORI

要旨

本校では、第2学年における宿泊行事として、ユネスコエコパークである志賀高原への林間学校が位置付けられている。総合的な学習の時間の取組として、

- (1) 人間と自然の共生を目指すデザインを考え提言すること
- (2) 目的に沿ったプレゼンテーション資料を工夫をして作り発信すること

をねらいとした一連の活動を行った。この学習は、前年度（第1学年）3学期の学習が基礎になっている。

林間学校の事前学習としては、志賀高原のガイドの方によるオンライン講義、係の生徒による各テーマの調べ学習と学年全体での発表会を行い、林間学校の当日は2泊3日で「大自然に触れる」「大自然を感じる」「大自然について考える」と称して目的意識を少しずつ変えながら、体験的な取組を行った。事後学習としては、志賀高原の自然環境を守る／活かす取組や志賀高原のよいところをアピールするスライドを作成し、他者に発表し合う活動を設けた。

その結果、自然の共生を目指すデザインとして、ワークショップや地産地消の方策など、その土地での体験を重視したアイデアに加え、SNS（Social Networking Service）、VR（Virtual Reality 仮想現実）など、デジタル技術を活用したアイデアが創出された。また、工夫した発信としては、前年度の学習を踏まえ、寸劇形式で紹介する、キャッチフレーズを作るなどが見られ、前年度の取組から多くの広がりがあった。国語科等の教科学習や生徒同士での協働による効果と考えられる。

キーワード：宿泊行事 コミュニケーション デザイン 総合的な学習の時間

I はじめに

本校では、第2学年における宿泊行事として志賀高原への林間学校が位置付けられている。志賀高原は上信越高原国立公園の中にあり、ユネスコエコパークとしての教育プログラムが充実している。本校第2学年では平成25年度から志賀高原観光協会と協働し、体験と対話を重視して本校生徒に合わせた教育プログラムを実施してきている。

この林間学校は、新型コロナウイルス感染症の影響により2年間実施できなかったが、令和4年度には感染症対策を十分に行った上で実施できることとなった。本稿では、この林間学校をはさんだ1年3学期から2年1学期にかけて実施した一連の総合学習「自然環境を守る／活かす」の取組について、特に第2学年での活動を中心に報告する。

なお、本実践はコミュニケーション・デザインに関する学習活動として位置付けている。その目標は、平成26～30年度の文部科学省教育課程研究開発学校指定研究（お茶の水女子大学附属中学校、2020）で開発した新教科「コミュニケーション・デザイン科」を踏まえ、次のように捉えている。

よりよい社会の実現に向けた課題発見・解決・探究のために、様々なツールを活用して思考・発想し、他者と対話・協働しながら、思いや考えなどを伝達発信するための統合メディア表現を工夫して、効果的なコミュニケーションを創出する能力と態度を身に付ける。

Ⅱ 学習のねらい

本実践の学習の目標は、次の2つである。

- (1) 自然の中で体験したこと、志賀高原ユネスコエコパークの取り組みについて学んだことをもとに、東京及びその近郊に住む私たちの視点から人間と自然の共生を目指すデザインを考え、提言する。
- (2) 目的や目標を設定して発表内容を考えプレゼンテーション資料を作成し、見やすく効果的に伝わる工夫をして発信する力を身に付ける。

そのために、次の学習を設ける。

- ・志賀高原のユネスコエコパークとしての取組についてオンラインの事前講話から知り、実際に林間学校で歩いて観察し、ガイドから話を聴いて考え、「自然環境を守る／活かす」取組に関する情報を収集する。
- ・志賀高原を人々にアピールするために、志賀高原の自然環境を守る／使うアイデアを新たに考案し、スライドにまとめ、発表する。作成したスライドは志賀高原観光協会に提供する。

翌年度に控える東北地方への修学旅行では、さらに「歴史・文化を守る／活かす」という視点にもつなげ、思い入れのあるまちや社会をより豊かによくしていく提案を卒業期にするための一助としていくことを想定している。

Ⅲ 前年度3学期（第1学年）の取組の概要

本校の学区は都内のみならず、埼玉県及び千葉県の一部を含んでおり、公立学校に比べて多様性に富んでいる。生徒各自が住む各地域（以下、「地元」と呼ぶ）では、多かれ少なかれ、自然環境を守る取組や生かす取組が行われている。改めて中学1年生として地域に目を向け、その地元での生活経験や学習経験を振り返りながら、環境を守る取組や生かす取組について知り、スライドにまとめ発表する機会を設けた。お互いの地元の取組を発表し合うことで、様々な取組を知ることができ、取組を評価・改善する視点をもつことができた。同時に、地元に対する愛着やこだわりを強くすることができた。なお、生徒の居住地に関する個人情報扱うため、自宅の番地等が特定されることのないように配慮した。

テーマとしては、「〇〇区の食品ロスの取り組み」「〇〇市の銀杏と人々の関わり」「〇〇区でゴミを海に流したときの影響」「〇〇市〇〇区の生き物の種類とそれに関する法令や条例」など多岐に渡るものを生徒は設定していた。生徒が作成したスライドの例は図1のとおりである。

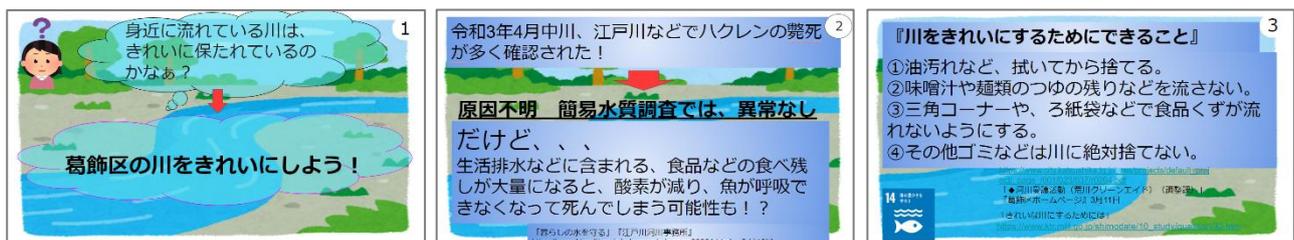


図1 前年度に生徒が個人で作成したスライドの例

IV 林間学校の事前学習、及び当日の体験を通した学び

林間学校の実施 1 週間前に、講師のガイドの方からユネスコエコパークや志賀高原の動植物、観光などについて、オンラインで講義を受けた。また学習係の生徒が教員から与えられたテーマについて 1 人 1 テーマずつ調べてレポート (図 2 Google スライド) を作成し、冊子「学習のしおり」にまとめ、生徒に 1 冊ずつ配付した。総合的な学習の時間として学年内の発表会を行い、学習係は 1 人 1 分ずつで内容を発表した。

その上で、2 泊 3 日の林間学校の当日に臨んだ。毎日の活動テーマを「大自然に触れる」「大自然を感じる」「大自然について考える」とし、目的意識を少しずつ変えながら体験的に活動した。主な行程は表 1 のとおりである。

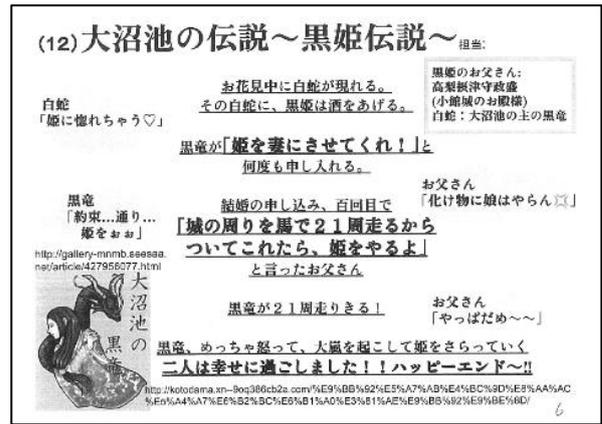


図 2 学習係の生徒が個人で作成したレポートの一部

表 1 林間学校の主な日程

1 日目 (環境学習と足慣らし) 大自然に触れる～緩衝地域～	2 日目 (登山) 大自然を感じる～核心地域～	3 日目 (環境学習) 大自然を考える～鑑賞地域～
東京駅集合 新幹線・バス移動 入所式・昼食 足慣らし ・自然探勝コース (木戸池～蓮沼) ・スペシャルコース (木戸池・田ノ原湿原) 入浴・夕食・土産購入 クラススタンプ練習 就寝	起床・朝礼・朝食 バス移動 登山 ・池めぐりコース ・サンシャイントレイルコース 等 バス移動 ・入浴・夕食・土産購入 キャンプファイヤー 就寝	起床・朝礼・朝食 退所式・バス移動 ・プリンスホテルスキー場 →せせらぎコース →しなのきコース →高天原スキー場 修了証書授与式・バス移動 昼食・土産購入 バス・新幹線移動 東京駅到着・解散

V 林間学校の事後学習

林間学校を終えて、総合的な学習の時間として、志賀高原の自然環境を守る／活かす取組や志賀高原のよいところをアピールするスライドを作成し、他者に発表し合う活動を設けた。

スライド作成に向けて、教師から生徒に提示したプリントの一部は図 3 のとおりである。

生徒が協働的に作成したスライドの例は図 4、5 のとおりである。

全グループを 4 つに分け、4 教室に分かれて発表し、それぞれの代表グループを選出した。その上で、1 学期の最終日に、会場を大学講堂に移し、代表グループの発表会を実施し、聴き手の生徒が投票し、生徒祭 (文化的学校行事) で全校生徒の前で発表する代表の 1 グループを選出した。

2 志賀高原の自然

特徴

- 山はすべて**火山**
- ⇒**窪地**ができて池が多い
- 池は川と繋がっていない
- ⇒何年後かには**無くなる可能性**今しか見れない自然！ 😱

取り組み

- スキー場は**元の環境に戻す**というきまりがある
- なるべく**人の手は加えない**
- ・**山菜**を捕るのにも**規制**がある

植物

ワタスゲ・モウセンゴケ・白樺・岳樺・クロベ・ゼンマイ・ヒカリゴケ・ミズバショウ・シナノキ・ネマガリダケ

動物

ニホンカモシカ・ニホンザル・オコジョ・イワナ

↓

志賀高原でしか見られない、植物や動物がいました！

6 まとめ

「志賀高原をもっとアピールしたい!!」
ガイドさん

「志賀高原といえば!!
っていうのを作ろう!!!!」
意気込む四班

林間で志賀高原の自然を体感
⇒**全国にこの魅力を届けたい!!!!**

**豆腐と草木染めを
新たな特産品案で提案**

緩衝地域に工場を建てる
⇒**自然環境の汚染**

3 見えてきた課題

〈課題点〉

- ①志賀高原はスキーのイメージが強く、
志賀高原の自然はあまり全国に広がっていない
- ②**志賀高原といえば!**という特産品がない

山崎といえばヤマザキパン!
草加といえばせんべい!
⇒**じゃあ志賀高原といえば?**

新しい志賀高原の自然をいかした特産品を考えたい!

7 参考文献

- ・志賀高原自然保護センター(イラスト引用)
<https://shizuhogo-center.shigakogen.gr.jp/>
- ・ウィキペディア(志賀高原)
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BF%97%E8%B3%80%E9%AB%98%E5%8E%9F>
- ・環境にもやさしい「草木染め」とは?
<https://www.trans.co.jp/column/sdgs/kusakizome/>
- ・豆から作る豆腐の作り方
<https://daidokolog.pal-system.co.jp/recipe/2999>
- ・いらすとや
<https://www.irasutoya.com/p/faq.html>

図5 生徒が協働的に作成したスライドの例

VI おわりに

一連の活動を通して、課題について情報を収集し、目的に合った新たなアイデアをグループで協働的に考案する姿が見られた。例えば、以下のものがあつた。

- ・地産地消の方策を提案する
- ・観光ツアーを企画する
- ・植林イベントを開催する
- ・自然素材を使用したワークショップを開発する
- ・新たな商品を開発する
- ・見込んだ収益の使い道を考える
- ・志賀高原のために地元でできることを考える
- ・自然を楽しめるアプリを考案する
- ・パンフレットや観光マップをつくる
- ・SNSでの発信方法を考える
- ・志賀高原の魅力を伝える Web ページを作る
- ・志賀高原の自然を体験できる VR をつくる

地産地消の方策、観光ツアー、ワークショップなど、その土地ならではの体験を重視したアイデアが多くあつた。一方で、特に、SNS (Social Networking Service)、Web ページ、VR (Virtual Reality 仮想現実) に関するものが見られた点は、デジタル技術と日常的に生活している生徒らしいといえる。

また、協働的に考案したアイデアをスライドで発表する際、次のような工夫が見られた。

- ・寸劇形式で紹介する
- ・林間学校で実際に撮影した画像を用いる

- ・自作のイラストを用いる
- ・クイズにする
- ・動画をつくる
- ・ゆるキャラを活用する
- ・キャッチフレーズを作る
- ・商品や企画のイメージ図をフリー素材で作成して掲載する
- ・SNS 風に紹介する画像をつくる
- ・提案理由や目的を分かりやすく示す
- ・現地でガイドに聞いたエピソードと関連させて示す

今後については、第3学年で東北地方への修学旅行が控えている。そこでは、平泉や遠野の歴史や文化、震災の被害にあった気仙沼や大船渡の復興を生きた教材として体験的に学ぶ。新たなまちづくりや社会づくりのアイデアの創出に向けて、上記の取組と関連付けて深まりをもたせたい。また、今回は協働的に発表の工夫をしたが、その工夫を各教科や自主研究などの各自の活動にも生かしていけるようにしたい。

【参考文献】

お茶の水女子大学附属中学校 (2020). コミュニケーション・デザインの学びをひらく. 明石書店. p.14.